令和元年度　第１回酒田市総合教育会議

１　日　　時　　令和元年６月28日（金）　開会：13時49分　閉会：15時33分

２　場　　所　　酒田市役所３階　第１委員会室

３　出 席 者

（構成員）　酒田市長　丸山　至

酒田市教育委員会

教育長　村上　幸太郎

委員　　岩間　奏子

委員　　渡部　敦

委員　　神田　直弥

委員　　村上　千景

（事務局）

総務部長	田中　愛久
教育次長	本間　優子
教育次長	齋藤　啓悦
教育委員会企画管理課長	長村　正弘
教育委員会学校教育課長	佐藤　寿尚
教育委員会学校教育課指導主幹	小松　泰弘
教育委員会社会教育文化課長	阿部　武志
教育委員会スポーツ振興課長	富樫　喜晴
教育委員会図書館長	岩浪　勝彦
教育委員会企画管理課課長補佐	杉山　稔
教育委員会企画管理課企画管理係長	若林　伸

４　傍 聴 者　　２名（報道関係者２名）

５　協議事項

第２期酒田市教育振興基本計画の方向性について

６　議事経過の概要

次のとおり

令和元年度　第１回酒田市総合教育会議（令和元年６月２８日）議事録

１　開会

（本間教育次長）

それでは、これより令和元年度第１回酒田市総合教育会議を開催させていただきます。

本日の会議の進行を務めさせていただきます教育次長の本間でございます。どうぞよろしくお願いいたします

本日、２名の方から傍聴の申し出をいただいておりますのでご報告申し上げます。本日の資料につきましては、傍聴者へ配布させていただくこととします。

それでは、次第に沿って進めさせて頂きます。

最初に、丸山市長からごあいさつをお願い致します。

２　あいさつ

【丸山市長あいさつ】

教育委員の皆さま、ご苦労さまでございます。それでは、開会に先立ちましてご挨拶申し上げます。本当にお忙しい中、今年度第１回目ですね。総合教育会議にお集まり頂きましてありがとうございます。本日は第２期の酒田市教育振興基本計画の方向性についてというテーマを設定させて頂いて、皆さまと少し意見交換をさせて頂ければなと思っているところでございます。昨年度は、総合計画の策定に伴いまして酒田市教育等に関する施策の大綱、この見直しをさせて頂いたところでございました。この見直しに当たりましては、総合教育会議の場で大いに意見を頂きながら、参考にさせて頂いた上で市長がまとめるという大綱でございましたので、それをさせて頂いたところでございました。

今日のテーマにもなっておりますけれども、第２期の酒田市教育振興基本計画でございますけれども、これは教育委員会が策定をすると、皆さま方が策定をするものでございますけれども、やはり酒田市の総合計画、さらには先ほどの教育等に関する施策の大綱、この２つの大きな方針とも整合性を取りながらより具体的に目指すところを実現するための方策としてこれを定めていかなければならないということかと思います。また、昨今言われておりますのは、超スマート社会という言葉が行き交っている訳ですけれども、Society5.0 ということで、４番目の新たな社会改革みたいな形で言われておりますけれども、そういった中でこの地域を担う子ども達だけでもないとは思いますけれども、大人も子どももこれからどういうふうに育っていくべきなのか、それから人生１００年時代ということで、これも６０歳、７０歳で人生終わりという時代でもなくなってきている訳で、そこからまた第２、第３の人生が始まるという事を考えた時に、やはり教育というもの、それがどう計画に則って進められていくべきなのかということについて新しい視点で皆さま方から議論を頂いて、計画の策定を行って頂かなければならないのかなとこのように思っているところでございます。今回の総合教育会議の意見交換を通して、教育長そして教育委員の皆さま方とこれからの本市の

教育について共有しながら、共通理解に立ちながら、これから酒田市の教育というものをしっかり考えていきたいとこのように思っておりますので、どうぞ忌憚のない意見をお聞かせ頂ければなとこのように思っているところでございます。どうぞよろしくお願い致します。

（本間教育次長）

続きまして、村上教育長からごあいさつをお願いいたします。

【村上教育長あいさつ】

それではご挨拶申し上げます。市長におかれましては、本当に大変お忙しいところ、このような会を開催して頂き、感謝申し上げたいと思います。大切なテーマを取り上げていただきまして、今ありましたように酒田市の第２期の教育振興基本計画の方向性について市長と直接意見交換を行うことができるということで、大変タイムリーな会議かなというふうに思っているところでございます。本市の教育振興基本計画は今年度検討委員会を開きまして作成していく予定となっておりますけれども、直接担当課としましては企画管理課が担当する課でございますけれども、今年度から新しく次長２名体制というふうになりましたので、総元締めはお二人の次長というようなことになります。担当課は企画管理課ということになります。そういったことで、新たな体制を充実して頂き、その上で良い計画を作っていければというふうに思っているところでございます。これまでの振り返りも重要なわけですけれども、改めて、非常に酒田らしいと言われている点を振り返ってみれば、一つは人材の投入と、人材を十分教育に活かすという方針。支援員の配置、それからALTの配置と市長の決断によってですね、多くの人材を教育に投入することができております。また、文化芸術につきましても条例を定めて、文化芸術面から振興を図っていくということは既に動いておりまして、皆さまご承知の通りでございます。また、施設面におきましても、学校の統廃合に関わる新しい学校の建設、それから今話題になっております昨今のエアコンの設置等ですね、非常に大きな財源を確保しながら進めてきているということで、今申し上げたところはその一端でございますけれども、非常に他市からも注目されている、うらやましがられている点なのかなというふうに思ったところでございます。これからの１０年間の方向性ですけれども、市長におかれましては非常に幅広い視点をお持ちで、例えば義務教育はもちろんでございますけれども、幼児教育、それから高校問題、それから大学、そして企業。こういった幅広い視点から教育を考えて下さっているというふうに日頃感じておりますけれども、また一方では社会教育に対しての考え方も時々伺うことがございまして、生涯学習、今年その振興計画を作る年でもありますが、生涯学習と社会教育の関係、それをどう考えればよいのかといったようなことについていつも問題提起を頂いているところです。これも含めて非常に良い機会になっているのかなというふうに思っているところでございます。今日は、私どもが責任を持って作る振興計画について、市長の方からこういう点は大事じゃないかというふうな話題を投げかけて頂き、それに対して委員の皆さま方、それから事務局の私どもがそれをどう受け止めるかということを議論していきたいというのが一番目の目的でございます。市長の方

からはどうぞ忌憚のないボールを投げて頂ければありがたいというのが正直なところです。第２点目は、今新しい基本計画の重点項目の候補を少し仮にあげているところです。資料には想定とありますが、想定というといかにも決まったかのような感じがしますがそんなことはございませんで、仮にこれを重点とすればという項目を空欄もありながら資料として作っているわけですけども、こういったことについてその重要度や取り組み方についても私ども事務局の考え方もございますし、そして委員の皆さま方の意見もここで出して頂ければありがたいと思います。当然、市長の方からもご意見頂ければと思います。主にこの２つの視点で話が深まればというふうに思っているところでございます。これまでの土台の上に築きたいというつもりでおりますので、今後の酒田らしい教育の在り方についてたくさんご意見を頂戴できればと思います。本当にありがとうございます。よろしくお願い致します。

３　協議

（１）第２期酒田市教育振興基本計画の方向性について

（本間教育次長）

それでは、これより協議に入ります。ここからは、市長に座長をお願いいたします。なお、発言の際には、皆さまは座ったままでお願い致します。

（丸山市長）

教育委員と言うと一般の人からすると、学校教育がすぐ頭に浮かぶんですね。学校の授業だとかＰＴＡだとか。ただ、ＰＴＡは実は社会教育ですけど、学校というものを中心に教育委員会の本来の機能というか権限とはそういうものだと捉えがちなんですが、実は私なんかよく考えると、社会教育にいたこともあるということもありますけれども、社会教育とは本当は大事だと、つまり人間がいろんな物事を考えて判断して変わっていく、変えていくという人をつくるという意味の社会教育が、非常に大きな地域を作ると思ってまして、それも教育委員会の範疇だし、今の酒田の場合は文化・芸術・スポーツの全部が教育委員会なんですよね。これを教育長も入れて５人でというのは本当に大変なんだろうなという思いもありますけれども、しかしそれだけ大きな役割を担ってるんだと、それと街づくりイコール人づくりということからすると、その人というのはオギャーと産まれて亡くなるまで全部関わっているわけで、その教育振興基本計画の範囲というのはすごい範囲を網羅しなきゃいけないし、中身も非常に責任のあるものでなければならないのではないかなと思うわけです。そんなことで、私はそこまでの意見しか言わないんですけれども、是非そういう想いでこの第２期の教育振興基本計画というものを策定をして頂きたいなと思っておりますし、それがしっかりとそのように子ども達だけでなくて、我々大人もそうですけれどもそのようにしっかり育ってもらえるようなプログラムに繋がるものでないとまずいんだろうなと思うので、理想論だけ書いてもしょうがないというところがあって、そういった面を含めて教育委員会の皆さんに頑張って頂きたいなという想いを持っています。その上で、企画管理課は大変なんだろうなと思いながら、課長の方から少し議論のベースになる中身について説明をして頂いた上で

皆さんから意見を頂きたいと思います。

長村企画管理課長が資料１、資料２を説明

（丸山市長）

資料１の真ん中のところの想定重点項目のところで皆さんの方から何かこれはいらない、これは抜けているということについて色々意見を頂ければなということであります。そんなにかしこまる必要はありませんので、自由に発言して頂ければなと思いますけれども、今よくよく見ていたら国の方で今総務省とか一生懸命こちらの方に超スマート社会 Society5.0 というのも色々アピールしてくるわけです。しかし、教育等に関する施策の大綱を作った時に私自身もそういう意識はなかったんです。大綱をざっと見たところ、超スマート社会に関する記載はないですよね。しかし、国の示した現状と課題の中に超スマート社会がズドンと出てくるわけです。これがどういうふうに教育振興基本計画の中で書き込んで具体的な重点項目として、具体的なものをどう載せるかというのが私としては課題かなという想いを持ってはいるんですけれども、是非皆さんの方からも自由に意見を言って頂いて、これから項目について詰める上での参考になればいいなと思っています。

当然、この教育振興基本計画の第２期の体系図というのはまた作られるわけですよね。そのための具体的な事業みたいなものが貼り付いていって、それが成果がどう上がったかについての評価をして、成果が上がらない事業についてはまた見直しをかけていくという流れで進むという理解でいいわけですよね。一番気になるのはＩＣＴ環境だとか、安心安全な学校施設というのはお金がないとなかなかできないので、非常に皆さんに不安感を掻き立てるようなことになってしまって大変申し訳ないなと思っています。そういったことも含めてで結構ですので何かありますか。

（村上教育長）

今市長の方からも超スマート社会 Society5.0 のお話が出たんですけれども、これを教育でどういうふうに受け止めればいいのかなということで、あまり熟してないような気がするんです。市長も部課長会で解説なさってました通りですけれども、Society1.0 が狩猟社会で、2.0 が農耕社会で、3.0 が工業社会で、この辺まで来るとなんとなく所得倍増計画みたいなとこなんですけれども、私の個人的な感覚では Society4.0 の情報化社会、そこで精いっぱいというか、学校とは情報化に対応しなければならない。情報をどうやって処理して、情報を活かして、その技術を身につけたりしながらコンピューターもちょっと使えるようなそういう大人に子供が育てばというようなことで、なんとなく Society5.0 となっても 4.0 との区別がとんでもなく飛躍してますよという飛躍の度合いがなかなか私自身も上手く捉えられているのかなというのがあるんです。ところが一方で、将来子ども達が就くであろう仕事は今の人がやっている仕事の相当部分なくなるであろうというようなことで、人間がやらなければならないよく言われる生き残る職業というのもまたリストがあるんですけれども、人間でなけ

ればできないようなことを仕事として求められる時代が来ますよというような考え方なんです。そういう危機感というか、不透明さがあるんじゃないかと思います。ですから、例えばSociety5.0 がすぐにイコールパソコンの話だとか、イコールタブレットの話であるとか、そういうふうな直結しているような感じではない。それはむしろ 4.0 のまだまだそういうところのような感じがしてしょうがない。5.0 というのは、そうやって人間でなければならないような仕事の在り方、そうやって社会が作られていくときの教育の在り方というのは何が大事なんだろうかなというようなこと、肩代わりをしてくれるコンピューターのことについても人間はコンピューターから使われてはダメなんで、やはりコンピューターのことをよく知らなければならないというのが依然としてあると思うんです。だから、5.0 の話というのは市長の方から最初にあったものですから、実は私個人的にはこうだというようなものはなかなか基本計画の中の位置づけ方について、タブレット何台必要だとかいう話とはちょっと違うレベルの話なのかもしれないなという気はしてます。

（丸山市長）

超スマート社会、確かに言葉が一人歩きして情報社会について満足に我々着いていけないような状態にあるわけですけれども、超スマート社会に仮になったとしてそれがずっとその社会がこれから維持されるかというと、災害などが起きた時にそれが機能しなくなるわけですよね。電気が止まれば何も動かなくなるわけです。その時人間が生き残るために、昔サバイバルだとかそういうので火をおこす技術から始まって、狩猟社会の時代に戻っちゃうわけですよね。その狩猟社会や農耕社会に戻ったとしても生き残れる逞しさみたいなものを我々が持たなきゃいけないんじゃないかということで、確かに超スマート社会の中で色々な機能を駆使してその時代にあったような生き方をするというのももちろん大事なんですけれども、でもそれがなくなった時にもサバイバルで生き残れるような逞しい人間というのもこれまた必要で、教育というのは超スマート社会に対応できればそれでいいというものではないような気がします。大変なんだなという想いがあるんですけれども、実際我々もかなり高度な社会の中で生きているんですけれども、鉄を作ってくださいと言われて我々事務系の人間って鉄さえ作れないですよね。火はおこせますが、鉄鉱石を持って来て溶かして鉄をドロドロしてって我々それできないですよね。でも、できる人はもちろん一般的にできるんですけれども、コンピューター作れって言っても我々作れないですよね。人間の能力ってものすごいものが求められているような気がして、それについていく教育ってどういうふうなことをしたらいいんだろうかというのが分からなくなってきているというのが正直なところです。超スマート社会とは言うけども、本当にそれに備える教育の在り方というものは何がどうしたらいいのか見当もつかないというのが正直な思いでいます。でも、結局これはたぶん触れたいんですよね、教育振興基本計画の中では超スマート社会への対応という何かしらのメニューを。

（岩間委員）

今、ＩＣＴの話はあったら便利で、そういった人口が減りながら機械に頼らなければいけない時代が来る中で、それを使いこなせる人、能力は必要かなと思いますが、ただ全員が全員、全ての人が使いこなせなくてもいいと思うんです。市長が今仰ったように、鉄を作る人、色々なそれぞれの得意な分野が合わさって、人数が減っても社会が回るような形にしていかないと、やはりこれから今まで通りでいかなくなる時に、自分はその地域とか、家庭の中でも会社でも、市の中でも何ができるかなと、生かしてもらってる中でというところの気付きみたいなものがないと、協力して生きていけないと思うので、そういったことが教育の中で学べて多様性というか、いろんな頭の出来の良い子悪い子色々障がいがあったりとか本当にスポーツが得意な子、何でもそれぞれ一人一人に良いところがあって、仮に誰かが見たら自分はできてないなというところも見方を変えればやはり地域の中で自分が生きているというような役立ち感というものがあると思うんです。そういったところも認め合えるようなことが少し義務教育の課程の中で種まきでもできたらいいなと思いました。

仕事の話になるんですが、私一企業の社長としてこれから会社が地域の中で生き残っていくためにということで、色々な勉強をしてセミナーを受けたり頭でっかちにはなってたんですが、自分ばかり頑張ってあれこれできても学んだことを落とし込んでいない現状があって、社長だけが頑張ってるというちょっと浮いてる、社長になって５年なんですけれども、最初のやる気がなんかだんだん現実が見えてきて自分だけが頑張ってちゃダメだなと思った時に、やはり社員それぞれが会社の経営の内容だとか、細かい部署部署でもやはり自分が今まで通りの仕事じゃないものもやらないと会社が残っていけないよなと感じてもらわないと変わらないと思ったので、それをどうしたらいいかなと悩んでいた時に、同業者の中でＴＯＣという勉強の理論があるんです。それは製造業、物づくりだとかそういうものにおいて、全体最適するためのマネージメントの理論なんですけれど、生産管理の理論だけじゃなくていろんな一般的な問題解決の手法だとか、思考プロセスだったり、あと色々教育分野とかにも応用されているものがあって、それを勉強している人から情報を聞いて、先日市内の跡継ぎ経営者がそのＴＯＣを勉強してみたい、それを会社にどう活かせるかということで合同研修会をしまして、皆で学び合いをしました。グループに分かれて会社の物づくりの流れをサイコロ振りながら勉強するんですけど、それが上手く流れるためにはボトルネックといってビンの口、ここの流れが細いところに合わせて仕事を流していかないと先に進まない訳です。ここをボトルネックに合わせて全体が最適するためにということでいろんな勉強をした時に会社が上手くいくんでした。そういうことを事業だけじゃなくて人間関係とか、弱いところに合わせて流し方を変えるということで色々業績も上がりますし、製造業だけではなくて当社の中に聴覚障がいを持った子のお母さんが中に入ってその子に合わせて生活をするようなったら、今までやらなきゃやれなきゃといってたところがそこに合わせて目線を落とすと、そこに合わせて生活が流れるから苦しくなくなった。その子は障がいを持ちながら普通学級に入れる選択をして普通教育の中で一緒に育てて、できないところをどうしたらできるようになるかという考え方を通して、その方は成人になって今も耳は聞こえないけれどもダンサーと

して世界で活躍するような人間になったということで、色々教育にも活きることがあるんだよという話を聞いて、その勉強会の中で自分は業績を上げたくて行ったのに子育てに通じるものがあるんだなと思いました。本当に社長の指示・命令だけで社員は動かなくて、それを解決するにはということでＴＯＣというものを勉強して本当に言われなくても、子どもに勉強しなさいとか、早くしなさいとか、早くお風呂に入りなさいと言われても、やはりなんでしなきゃいけないのかというのが分からないと動けなくて、やりなさいじゃなくてお風呂になんで入るんだろうねという投げかけをした時に、キレイにならなきゃいけないからということに気づくと自然にお風呂にも入るようになるというような話も色々聞けたりして、ＴＯＣの理論も、根本、なんでやらなきゃいけないのかということを少しみんなで共有して土台を作ってから、色々な細々とした施策も取り組むと、土壌がなってないところに施策をやっても使い方とか、ただ便利だからじゃないし、やはり時間を削減したいから使うというような理由みたいな根っこのところが分かるようにしていかないと、本当に盛りだくさんでやらなきゃいけないことがたくさんあって、最初にやらなきゃいけないことだけに目が行ってしまって、なんでだろうなというところにも行きつくとこれはやはり今は必要ないかなとかそういったものの選択とかも、スマートに簡単に考えた方がいいのかなと感じたところが私なりにありました。

（丸山市長）

資料だと、教育目標とかその基本的方向とかあるじゃないですか。これも全部作り直しですか。それは今のところ何にするかという事は固まってないですよね。今、岩間委員から出た多様性への対応というのは確かに今の時代必要な大項目かもしれませんね。それは、是非組み込んでダイバーシティーとかいう言葉よりも、多様性への対応の方が分かりやすいと思うんですけれども、そういうのは大事なような気がしますね。ＴＯＣの話もありましたけれども、企業に行くと特に製造業などの会社に行くと、事故を起こさないための社員教育のようなものを徹底してやってますよね。あれはＴＯＣというのか分かりませんが、非常に参考になるというか公益大の近くにアライドマテリアルがありますが、この間私が会社の竣工式に行った時に、いい部品を作るために、それと従業員の方々が事故にあうことなく健康で健全で安全で作業することで良いものができるという前提ですね。徹底して安全教育、事故を起こさない教育というものをやるんです。それを全部わきまえて本来の製造部門に配置されること、あれはある意味目的があってそれぞれの下に目標みたいなものがあって、一つ一つが安全目標があって、それをクリアして最終的な目的に到達するというのが段階的に組まれているような気がして、教育もそういうふうな仕組みに成り立っているんだろうなと思うんですけれども、本当にそうなってるのかというのは私も検証できてないのでわからないんですけれども、今仰ったことって非常に大事なことだなと。最近役所の中でもワークショップだとかファシリテーターという話が飛び交うじゃないですか。ワークショップというのを使っていろんなことをやるんですけれども、それは手段なんです。目的というものをちゃんとおさえてそういう手段を使うというのが大事で、教育なんかもたぶんきちっとした目的があ

ってそれが多様性への対応というのが大きな目的だとすると、そのために何を段階的にやっていくのかというのをしっかり教育振興基本計画の中で組み立てられるといいなと話を聞いていて感じました。そういえば「多様性」というのが、どこにも載ってないですね。確かに最近テレビを観ても発達支援者への対応だとか、それから性的マイノリティといった人達の対応だとか、ありとあらゆる面で多様性への対応というのが求められていて、社会が大きく変わってきたなというのが肌で感じられる社会になりましたよね。だから、我々も女性活躍とか言ってるけれどもそんな状況じゃないと、そんなの議論の外、そんなの当たり前の話であって、むしろそうでないいわゆる個々に教育が与えられる時代になってきてるんじゃないかと、下手なこと言うと学校なんてそもそももういらないんじゃないかみたいな、超スマート社会だったら個人でいろんなことやれるし、教育サービスも個人個人に提供できる社会システムがあれば一カ所に集めてなんだかんだするという時代ってもう終わりに近づいているんじゃないかなと思う事さえあるくらいです。だけど、集団生活って必要だということからすると、学校はどうしても必要だとなれば最低限学校でやることは何なのかということを議論して詰めていく必要があるのかもしれないと思います。

（渡部委員）

超スマート社会の話が出たので私も意見があるんですけれども、今これから１０年ということでその時点で学習する小中学生、将来活躍するのって２０年後３０年後になると思うんですよね。その時代がどういう時代になっているのかというのは我々世代としても理解するのは難しいところなんですけれども、やはり将来の方向性だとか指針を定めていく我々世代の時代背景を想定して、その時点で活躍できる、必要とされる人材を育てるための多様性というのを基本計画には載せるべきだなとこの資料を見て思いました。その中で、先ほどの教育長からもありましたけれども、この先ＡＩの発達でたぶん職業がなくなるものもあるとか、さらには人手不足もすごく激しくなるんですけれども、そういう先の読めない時代に必要な人材というのは、個の力と言うか人間力というところは大切になっていくのかなと思います。最近言われている超スマート社会の中で、グーグル翻訳みたいなものがあるわけですけれども、将来外国の方と勉強しなくてもそういうものを使って会話ができるようになるので、その時になにが必要かと言うと自分の考えをしっかり伝える力というのが一番大切になってくるのかなと思います。手段はどんどん発達してカバーしてくるので、やはり個の力をしっかりと持って、伝える力を付けていかないといけないのかなというふうに思います。個性とか、先ほど多様性とかありましたけれども、自分で問題提起して解決してというところの部分もやはり大切だと思いますし、個性という部分も、うちの会社の人材育成の部分で、今までなんでもできるオールマイティな人材を育てようとしていた部分があるんですけれども、最近入った若い子たちはちょっと違う部分があって、２通りに分かれるんです。いろんな事を学ぼうとする子と、そういうのは苦手で自分の好きな分野をいち早く見つけて不器用なんですけどそのことを好きになって、自分で勉強して一部分を突き詰めていくと、いつの間にか周りの部分に対してもほとんどそういう考え方というものがついてきて、人材が早くできやす

いというか、定着しやすいというか、オールマイティな人ほど器用なだけに定着しないというか、個性という部分も企業の経営者というのは拾ってあげて伸ばしていくという、個の力というか個性というかやはり多様性の部分もあると思いますけれども、そういうところは最近すごく感じているところはあります。

（丸山市長）

市役所の職員はオールマイティを求められるからダメなんですかね。器用貧乏という訳じゃないですけれどもオールマイティを求められるとそこそこでいいというか、そうしかならないというところがありますけどね。今は、市役所の中でも福祉に専門の人が欲しいということで福祉職を作って採用してますし、戸田市のように教育委員会の専門職というのはやはりちゃんと公募してやる気があって能力がある人を専門職として見つけることで全体効果としては高まる。オールマイティな人も必要なんですけれども、全くいらないということではないでしょうけど、でも今まで我々の世界では専門職を入れるという発想はあまりなかったのが、変わってきてますよね。教育委員の皆さんが戸田を見られて、あの話を聞いたらうちもやってみるべきだなと思いました。

学校現場が長い先生の立場ということでも結構ですので、村上委員何かありましたらお願いします。

（村上委員）

多様性ということも少し考えさせられながら、今思っているのが、どんな社会であろうとも共に生きるということだけは、大事にしてきたのだろうな、これからもそうだろうなという思いで聞いておりました。学校経営にあたっては、私はそのベースになるもの、基底に何かほしいというときに「いのちの教育」というものを基底にして、それは一つの項目ではなくて、それをベースにして私たちの日々の教育活動を見直していこう、丁寧に重ねていこう、ということでやってまいりました。

「いのちの教育」が立ち上がったときに、平成１６年なのですけれども、当時の日野教育長さんがこのようなことを書いておられました。「『いのちの教育』の指針の内容項目は、家庭教育、学校教育、社会教育、スポーツ振興など多岐に渡る内容が盛り込んである。全てを貫いているのは、子供に輝いてほしい、県民一人一人が輝いてほしい。そして、地域が活発に活力を持って動いてほしいというその願いで貫かれている」、ということでした。教育に携わるみんなが英知を集めて、それに向かってやっていくということで、「いのちの教育」を大事にしたいということではないかと思います。ベースとなるものがあって、思いも重なっていくのだと思います。

子供たちに運動会の種目を考えさせたときに、新しく自分たちで運動会をつくると言い出して、「ぼくたちは、こういった種目をつくりました」と校長室に説明に来たのでした。「仲良しじゃんけん」と言いまして、私なんかは走ってきてじゃんけんをするのかなと思っていたら、違うのでした。仲良し班という縦割り班があり、それがチームになっていました。地

域の何人かの方にもお声を掛けて、５０人以上集まってくださったと思います。一人ずつ座っていただいて、チームでその方のところに行って、先ず挨拶をして、自己紹介をして、代表の一人がじゃんけんをして勝ったら、地域の方からボールを貰う。負けたら、自分たちがボールを渡すというような、新しい種目を考えて案を持ってきました。

「いのちの教育」というのは、生命もそうですが、自分たちの生き方を考える、小さい頃から地域とつながるために、地域の人も自分たちも喜ぶような運動会をつくっていく、そういうようなことを経験することが大事です。人の役に立ったり、人に喜んでもらえたりした自分に気づくというのは、とても大事です。それが、今まで出会ってなかった自分も知ることにもなるのです。そういった楽しさ、喜び、その先できっと「公益」という酒田市が今まで大事にしてきたことも、学んでいくのかなと。

ベースが「いのちの教育」にあれば、例えば小中一貫教育やＩＣＴ環境整備とか、例えば、これからつくってくださるライブラリーセンターもいのち輝く、「いのちの教育」の視点で見直すことで、また違ったハードもできてくるのではないかという思いで、資料を読ませていただきました。

「いのちの教育」には三つの柱があって、一つ目が自尊感情を育てること、二つ目がつながりと多様性に気付かせること、そして三つ目が命の尊さと人間としての生き方をしっかりと教えていくというのです。そういうように、ベースとなる「いのちの教育」を考えたいと思いました。昨日、教育委員会の後に、少し村上教育長とお話する機会もあって、明日何をお伝えしようかと思ったときに、やはり私は「いのちの教育」についてお話したいと思いました。小中一貫教育についても、そのことを絡めての道徳であったり、キャリア教育であったりしてほしいと思いました。

また、酒田市として頑張っていただいているなと、学校で感じたのは食育です。美味しいものを食べさせていただきながら、栄養教諭からはそれをサポートして、子供たちに栄養について語ってくれたりします。昨日ニュースでも「親子給食」を取り上げていましたが、酒田市はずっと前から１年生の親御さんを対象に、ちょうど自然教室に行って一つ二つの学年がいないときにやっています。ただ食べるだけではなくて、栄養教諭の話があったり、その後に校医さんが歯の話をしてくださったりしています。「もっといいことをやっているのに」と思いながら、テレビを観ていました。

さらに、大事にしたいなと思ったのは、私も指導主事として勤めさせていただいたときに、指導の重点として先ずは心、学び、体とあったのですが、四つ目として酒田市教育委員会では読書というのを掲げていました。前の三つが並ぶのと同じポジションに読書というのがありました。それは、生徒指導で大変だったときに、ただ子供たちを指導するのではなくて、読書を通して子供たちの考え方なり、生き方を大事に育てていくというものでした。ですから、私はライブラリーセンターをとても楽しみにしています。読書は子供たちが生きる上では大事な手がかりになり、同じような生き方はできないけれど、こんな生き方で、こんなふうに考えて生きてきた人たちがいる、こんな考え方もあるということで触れることができる読書というのは、大切なんじゃないかと思います。

（丸山市長）
ありがとうございました。そういう意味では読書なんてどこでもできるんですよね。確かにその通りだなと思って聞いておりましたので、４つのそれは今もあるんですか。

（村上教育長）
読書は生きてますね。酒田の特徴で、ずっとそこだけ手を離さなかったというところはありますので、今新たな展開はないのかということで色々やっているんですけれども、読書を集中的に議論してる会議もありまして、脈々と消えてる訳ではないというとこでございます。

（丸山市長）
各学校に読書の部屋があって担当の方がいらっしゃいますよね。司書の方いらっしゃいますよね。

（村上教育長）
司書の方の勤務時間の延長、そこは本当に改革の大きな一歩だと思います。

（丸山市長）
読書なんていうのは、本当にこの重点項目にあればそういったところへの手当てもしっかり組んでいけるということでしょうしね。今のお話も含めてですが酒田はそういうことで教育でしっかりやってるんだというとこを学校との関わりがなくなった人たちに伝わってますか？

（村上教育長）
伝わってないですね。確かに伝わりにくくなってるとは思っております。

（丸山市長）
これを何とかしたいものだなという感じがしますけどね。

（村上教育長）
昨日もちょっと村上委員さんが会議の後で仰ってたんですけれども、今の「いのちの教育」のお話をお互いにしてたんですけれども、それで今度現在の図書館が学校にリクエスト本を配達するという新しい動きを酒田市立図書館が学校サービスを充実させていて、そして各学校に面白そうな本とかリクエストがあった本を巡回できるようなシステムを今はじめているんです。これは駅前のライブラリーセンターが「よーい、どん」ですぐできないと思っていて、今からそういうサービス活動をやっていって業績を積み上げながら、ライブラリーセンターに引き継いで欲しいなと思ってることなんですけれども、そこで先生方の願い、あるいは子ども達の興味でもって、例えば「いのちの教育」であるならば「いのちの教育」セット、

教育セットと言うと言い方が大げさかもしれませんけれど、多角的に今の命の多様性について学べたりですとか、自分の命を大事にすることだとか、そういうことを多角的に捉えるようなセットが回るようであったら良いですねと委員が提言なさってたんです。そういうことで読書はいろいろな施策、命だけではないと思いますけれども、読書が非常に大きな影響を与えるであろうということで、それを充実させていくという方向は、今までは目立つような動きはしてきませんでしたけれども、今もう一回エンジンを掛けて司書を充実させたり、図書館機能を充実させたりして、そして昔型のたくさん本を読めばいいという読書から脱しようと、同じ本、大好きな本を探せるくらいでいいと、冊数の問題ではなく本に出会うということの大切さを今考え直してやってみているという状況です。

（丸山市長）

面白いですよね。そういう具体的な施策もそうなんですけど、この酒田の教育振興基本計画の大きな特徴としてそういうものにちょっと光を当てて、それを個性として打ち出すというのは面白いですね。

「いのちの教育」とは我々素人は考えがあまり深くない人間からみると、よく子ども達がいじめだとか自殺したりとか、そっちの方向でついつい捉えがちですよね。今、さっき仰ったようなもっと広い分野で「いのちの教育」というのは組み立てられているということを、ここにも防災とか道徳とかキャリアとか健康作りとかみんなあるんですけれども、少し理解しやすいような広がりを持った概念だということをアピールする必要があるような気がします。村上委員にお尋ねしたいのは子ども達が運動会で提案するといった発想というのは、結局学校教育の場合はそういう先生方が作ってあげるからできるんですよね。意図的にというか、プラットホームをちゃんと提示してあげてそこに子ども達を乗せて、そこで子ども達が自由な発想で色々な案を出す。だからそういう動きをきちっとしてくれない学校の中ではそういう芽というのはなかなか育たないような気がするんですけれども、それは酒田市に学校２０いくつかあるわけですけれども、要するにすべての学校においてそういう環境を作るために教育委員会という組織が指導と言ったら申し訳ないですけれども、そういうふうにやるんだよと意図的に働きかけをするというか、そういう機能って酒田の場合はしっかりでき上がってるのかどうかっていうのはよく分からなくて、いつも思うのは、学校長の差配次第だというふうに言われるとすごく意気込みのある学校長の元ではそういうことは子ども達にも教育できるけれども、あんまりそういうことには頭が働かない校長先生の元ではそういうフィールドができないと子ども達もそういうふうにはならないのではないかなとちょっと思う時があるのですけれども、それは私の見方が偏っているせいですかね。

（村上委員）

たまたま若浜小学校は運動会というところで、子供たちが・・・ということがあったんですけれども、他の学校でも子供たちの生徒会活動、児童会活動なり、そういう特別活動の中で「為すことによって学ぶ」ということは共通理解しているので、いろいろな形で出てきて

いると思います。

また、今お話を伺いながら「いのちの教育」を進めていったときに、子供たちが自分たち同士で関わる機会が増えました。そうしたら、いじめの認知件数がすごく減りました。それは何故かと考えたときに、増えた場合には、それは敏感に受け止めることができるようになったからといわれるのですが、友達との関わりが増えたことで私は、子供たちがこういうのはいじめではない、友達とのいさかい、トラブルなんだ、これはあって当たり前なんだというような強さも出てきたのかなと思います。何か言われたとしても、これは意見の食い違い、喧嘩だったんだなと、子供たちの受け止め方が変わったのかなと、一つの私の考え方なのですけれども、それもあるのではないかと思ったときがありました。

（丸山市長）

ちょっと少し考えさせられますね、私も。神田先生何かありますか。この教育振興基本計画って、学校教育と言いつつも小・中だけでなくて高校・大学も、専門学校もそこにもみんな及ぶような気がするものですから、そういう視点でもし先生が大学の学部長でもいらっしゃいますし、酒田市教育振興基本計画と大学教育とはどう関わるのかも含めてコメント頂けるとありがたいと思います。

（神田委員）

３点お話したいと思います。まず一つ目が、この資料１が非常に分かりやすくまとめて頂いて考える上で参考になったのですけれども、できればもう一つ加えて頂きたいことがあるなと思いながら見ていました。教育をめぐる現状と課題ということで整理をして頂いて、その後で重点項目というところに線が伸びているのですけれども、通常であればこの現状と課題に対して対応していくためには、どのような人づくりをしていけば良いか、その人に求められるような知識であるとか能力というのがどんなものなのかというのを整理した上で、ではその能力を身につけるためにはどんな施策が必要になってくるのかというような構造で整理をして頂くと大変分かりやすくなるのかなと思いました。と言いますのは、現在の教育振興基本計画の点検評価を行っておりますと、一つ一つの施策については非常に力を入れて取り組んで頂いておりまして、それぞれの評価も非常に高いものがたくさんあって、素晴らしい取組みだというように感じるのですけれども、それらの施策に取り組んだことによって実現されたものが何なのか、本来であれば教育目標に掲げられている人材が育成できた、これがゴールになるはずなのですけれども、この構造で書いてしまいますと重点項目に対して施策がぶら下がって、その施策ができましたというところから上に上がっていかなくなってしまうと思うんです。ですから最初に、教育目標として育成する人材像があって、その人材がどのような能力を持っているのかということが明確になっていると、アウトプット指標の活動指標だけでなくて、アウトカムしてしっかり人材の育成ができたのかどうかというところを見ることができるのかなというふうに思いました。ぜひ、次の計画の中ではアウトプット指標だけでなくて、アウトカムのところをぜひ明確にして頂いてそれが評価できるような、

そんなようなＰＤＣＡサイクルが回るような形になると非常に素晴らしいのかなというふうに思っております。

２点目は、資料２に基づきながら新しい計画を策定していくことになると考えます。これだけの取組みをして頂いて成果も出ておりますので、全くこれをゼロに戻してということではなくて、成果を踏まえた上で取り組まれていくと思いますので、次の計画というのが成果を踏まえた上で質的に充実をしていくとか、量的に何かを充実していくということになっていくと思います。その際に、教育目標として、または人づくりの将来像として、現状ではこのような人であるとか、このような力を持っているとかというような人材に関することだけが書かれているのですけれども、この計画を通してできればこんな素晴らしい教育をしているのであれば是非酒田に住みたいとか、我々としても胸を張ってこういう教育をするから是非酒田で教育を受けてくださいということをアピールできるようなそういったものを作っていく取組みを是非していきたい、それくらいの気持ちを持って作っていく必要があるのではないか。例えば、キャッチフレーズでもスローガンでも良いですけれども、酒田で育って良かったとか酒田で学んで良かったと思えるような教育の仕組み作りというようなものを入れて、現在の取組み、確かにこの目標として定められている数字は達成したけれども、これ本当に酒田で学びたいと思えるような成果が出ているのかという観点で見直していくと、ＰＤＣＡを回していく上で本当に大きな目標になってくるのかなと、非常に大変で首を絞めるようなことを言ってる感じなんですけれども、それくらいの事をやっていかないとなかなか小さくまとまってしまうともったいないなと思いますので、そういったところを是非検討して頂きたい。

３つ目はスマート社会に関連することなんですけれども、このＩＯＴ技術を活用してデータを収集してビックデータをＡＩで分析して、自動化システムが動いて問題解決するという仕組みそのものを技術的に作りたいということであれば重点項目には高度ＩＴ人材育成というようなものが入ってくるんでしょうし、その場合には大学でもメディア情報コースもありますのでそういった人材の育成というのは行っていくことができると思います。ただし、多くの方はＩＴ人材になる訳ではなくて他の仕事をしていくということを考えた時に、超スマート社会で求められる能力というのはいったい何なのだろうかということを考えてみると、超スマート社会であってもその下にあります持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）達成に資する教育（ＥＳＤ）で必要な事、それから人生１００年時代も求めてることは同じなんだろうと思うんです。超スマート社会の中では、データを活用してデータと既存の技術を活用して新しいものを作る。例えば、交通事故を防止するための自動運転技術をどう作るかとか、あとは過去の診断データを集めて医療分野においてＡＩを活用した診断を行うのがよいのではないかとか、あとは農業で過去のデータに基づいていつ、どれくらいのタイミングで水をあげるかとか、肥料はどれくらいかとかさまざまな事ができますし、さらにそれが個別化していくということになっていく訳ですが、我々に求められるのはどのような新しいビジネスを創造していくかという考える力ですとか、課題発見とか問題解決とか思考力ですとかそういったものが求められてくるのだろうと思います。これについては、例えばＳＤＧｓというとこ

ろを考えてみた場合でもこれは人権の問題とか、多様性の問題、貧困とか機会均等とか防災とか環境問題とかそういった多様な問題に対してどのようにして対応していくか、酒田の発展もこの中に入ってくるかもしれませんが、そうした多様なテーマに取り組んでいく際にも、やはり多様な意見を受け入れて考えることができる柔軟な思考力であるとか、批判的な思考力であるとか、データを読み取る力とか、コミュニケーション能力とかリーダーシップとかですね、そういった能力が求められてきますし、人生１００年時代ということになってきますとこれは終身雇用ではなくなってきて、転職を前提としていく形になっていくわけです。転職をするときに、次の仕事を容易に見つけることができる、求められる人材になるためには何が必要かというと、やはりキャリアプランというのを会社に準備してもらうのではなくて、自ら考えて活動できる人材になってきますので、先ほどの能力に加えて実践力のようなものが必要になってくるのではないかと思います。そうした力をこの教育を通して育成をしていくということを考えていき実践をしていかなければならないと考えた時に、実は新学習指導要領はそのあたりの事は全て前提として作られているのかなというような認識を持っておりますので、この確かな学力の向上の新学習指導要領への対応というところを本気で取り組んでいく、これで酒田のいわゆる学校教育というのが本当に優れているんだというところを内外に対して発信していけるような、それくらい胸を張って言えるような取組みをしていくことが大事なのかなというふうに思っております。

大学との関わりという観点で見ますと、先ほどのＩＴ人材もあるかもしれませんし、それからやはり例えば教育をする際に大学が関わることができること、今で言うと機会均等という観点で言うと、だれもが学校以外のところで教育を受けられるかというとそういう環境にないわけですので、放課後学習教室はやってますけれども、あれをもっと広い形でやろうという時に学生を出しますよということでお互いに、学生も教えることで学び合いになってる部分もありますしそういう形での取組みというのもあるかと思います。あとは、ふるさと教育という観点で見た場合には、それぞれの段階において割と同じようなことをやっているような部分もあると思うので、地域の課題を理解した上でそれに対してどう取り組んでいくかという時に、異年齢のグループで大学生と中学生が一緒にやってみたという時に、中学生でもこれだけできるんだからということで大学生にも刺激になるかもしれないですし、大学生を見ることによって中学生がもっと頑張ろうという気持ちになるかもしれないですし、共通の目標を持つことによってお互いに高め合えるのかなという形で、我々としても非常に貴重な機会になると思いますし、またそれによって教育の質を高めるということに繋がっていくんであれば、是非協力をしたいと思っておりますのでさまざまな形で小・中だけではなくて一緒に取り組むことができればと私としては思っておりますのでよろしくお願い致します。

（丸山市長）

ありがとうございました。そういう意味では大綱の中にも公益という言葉も入っているんですけれど、酒田市にとっては唯一の４年制大学でもあり、しかもその地域と一緒に歩むという理念、行政もそうですし大学も思っているものだから、この教育振興基本計画これは学

校教育だけではなくて社会教育、スポーツ、歴史、文化、芸術の面でもすごく大学が壁を取っ払って、もともと壁はないんですけれども、そういう深く関わりあえるそういう風土を持った地域だということをアピールするような教育基本計画であってもらいたいなと。たぶんそういった大学と地域の関係の土地柄ってあまりないような気もするし、ましてや教育基本計画の中にそういうものが貼り付いているというのはあまりないような気がするものですから、具体的どういう項目でするかは別として是非そういうふうな組み立てにしてもらえると面白いかなと話を聞いてて感じたんですけど。もう一つは新学習指導要領の中でもきちっとそういった神田先生が仰られたようなものが盛り込まれてるはずだということなんですけれども、言葉で言うと何なんですかね。先ほど先生が仰られたようなことを新学習指導要領の中でも謳われてる中だとすると、どういう表現で表される概念、目標というか言葉はあるんですかね。

（神田委員）

学力の３要素の中のいわゆる知識、理論でない部分ですね、思考力、判断力、表現力であるとか、学びに向かう意欲、そういった部分が今の内容に反映していると思うので、とかく学力と言った場合にはテストで何点取れるかというところに目が向きがちなんですけれども、それ以外の部分をどう伸ばせるかというところが大切で、それが今の学校におけるアクティブラーニングであるとか地域によってさまざまな活動を行うであるとか、そういった部分で対応できていると思うので、そこをどう充実させるかということを考えた場合にはおそらくコミュニティスクールの話なんていうところも地域と協力して教育していくかというところに繋がっていくと思うので、そのための手法として必要だということで上手く位置付けられるのかなと思います。

（丸山市長）

とかく今頭では理解すごくできるんですけれども、社会的評価として分かりやすいのは学力ですよね。やはり、地元の今日おいで頂いている山形新聞さんとか荘内日報さんとかそういうことないですけれども、何々大学に何人入ったとかどーんと流す人がいるじゃないですか。ああいうのを出されるとやはりそういう目線で考えなきゃいけないのかなみたいなこともあって、今言った話がもっと社会の常識化になるくらいに広まると人間そういうふうに学力中心で考えることはなくなるような気もするんですけれど、そこは我々の考えなんだろうなと思います。

（神田委員）

大学入試改革が進まないとダメですね。

（丸山市長）

この地域でだけでは何ともできないところがありますよね。だけど、本当に先ほど先生が

仰った自分で考えたり、思考だったり、そういう人ってそういう能力が高い子ども達って学力も高いんじゃないんですか。

（神田委員）
その傾向はあると思います。

（丸山市長）
なんとなくそんな感じがするんですよね。学力って別のものとして想定するものじゃなくて、そういったものの総合力としてその上に学力が乗ってくるような気がして、だから学力だけ切り離して何だかんだって言うんだけれども、やはりさっき言ったようにそういう思考力だとか考える力がある子っていう子はおのずと学力も高いっていうふうについ考えてしまいますけど、学力は高いけどそういうのは全然ダメな子なんて普通いないんじゃないかと思うんですけどね。

（岩間委員）
底上げしてそこからどこへ選んでもいいよとなるんです。そのためにやはりどの子も見捨てずちゃんとここまでは上げようかというところができたら。

（丸山市長）
昔の人は学力なんてどうでもいいから稼ぐ力が良いだのなんだのって、学力をないがしろにしてきたもんだから、よく言われるのは酒田と鶴岡を比較される時ありますけれども、昔から鶴岡は藩校があって庄内中学という歴史の古い中学があって、庄内中学は今鶴南ですね。大学もあって高専もあってということで、教育機関が集積している。酒田はあまりそういうものがなかった。商売だけで、学力よりもそろばんができればいいんだみたいなところがあったので、それに対する反動として学力に対する想いが逆に強い。さらには酒田にも４年制大学が欲しいんだというのはそういう環境に甘んじたくなかったから、なんとか酒田でもいう想いで大学を創った。我々創った方の立場というのはそういう想いがあったものですからやったんですけれど、学力って考える力がある人は学力もたぶん高いと思います。

（神田委員）
知識、技能が必要ないと言っているわけではなくて、当然高いのを前提として、さらにそれだけではなくてというような事ですね。

（丸山市長）
ありがとうございました。私自身も勉強になりましたけど、総務部長どうですかね。

（総務部長）

この間６中を見させて頂いたんですけれども、教育支援員さんが実際にどうしているのかなということで財政課と行かせて頂いたんですけれども、我々の小さいときに比べるとそういう環境もなかなか変わってきたので、教育支援員さんのやっている仕事というか役割ってすごく大きいのかなというふうに思ってきました。酒田はすごく教育支援充実しているわけですけれども、それはすごく良いのかなと率直に思って来ました。ただ６中は校舎が暗いなと感じました。

（本間次長）

色々考えさせられる会議で、特に図書館がみんなに期待されているなという部分もありながら、会社の社長さんたちの話を聞きながら新しく今図書館とは言いながら、非正規の職員がほぼほぼあそこで働いているというところが、市長の思いとかをどのようにそこに反映させるのかなという時に、この間図書館長とも話をしたんですが、その思いは非常勤の職員にも伝わってるのかどうか。少しは行ってるかもしれない。でもそれは全員に行かなきゃダメでしょ。そこの末端までもやはり研修というものが必要なんじゃないかなと、非常勤とは言いながらその人たちがしょっていくんでしょうから、というような話をしていたところにそういった話も聞いてやはりそうだよなというところもありましたし、こちらの「いのちの教育」とかそうしたことも聞きながら来たばかりでいきなり基本計画というところを、教育長が両次長が中心となってと仰ったので、どうしましょうと思って聞いてたんですが、そうした思いを聞きながら、組み立てていかなきゃいけないかなというところで大変参考になりました。

（丸山市長）

さっき食育の話が出ましたけれども、農林部局にいたので米粉だとかイカも含めてですけどどう感じられましたかね。食育が一つの我々の個性だとすると、それをもっともっと伸ばしたいんですけれど。

（本間次長）

この間の一般質問の中で、食品ロスの中でそういったことが語られた時に、我々のころは食べる物がそんなになかったので、そんな残滓なんてなかったと思うんですけど、今食品が豊富になったからなんでしょうかね。今は不登校に繋がるからやめてくださいと言われてるんだそうですけれども、全部食べるまで帰られなかった教育が保育園とか小学校とかありました。まわりが掃除してる中でも一生懸命食べているのが当たり前だったのが、今もう不登校に繋がるからやめてくれと言われてるという、その時代が変わってると、子ども達も変わってるんですよね。それをどういったようにしていくのか、新しい新教育要領に基づいてそれを真剣にといった中でちょっと思ったのが、ゆとり教育時代というのがありましたがこの

辺ってゆとりがあるのに都会に引っ張ってってさらにゆとりをといった結果がうちの子どもの２番目と３番目なんで思い浮かびまして、その教育要領とここがどうなのかというところをちゃんとすり合わせながらしないといけないのかなと思いながら聞いておりました。

（丸山市長）

やはり新教育指導要領は、全国を一律で捉えたものでしょうから、この地域に当てはめろというと本当にその通りでいいのかどうかというのはちゃんと検証してみる必要があるかもしれませんね。

齋藤次長は学校教育のプロ中のプロですけれども、何かありますか。

（齋藤次長）

先ほどの新学習指導要領というと、今までは知識として知っているということも大切でしたが、これからは何を知っているかというよりどのように学んだかとか何ができるかということが大事になります。他の先生からあった通り、知識理解が基礎になってそれを使えるような思考力・判断力・表現力が必要であり、さらに学ぶ意欲というのが非常に大事だというふうにしてこれからの新学習指導要領では言われてるところです。それらが一番大きく変わったところです。教育の大綱があって、一番最初に新しい時代と書いてあったので、新しい時代ってどんな時代だろうと考えました。人生100年て言われても100年生きたって健康じゃなかったらダメです。すると健康寿命ってどうなんだろうと考えたり、少子高齢化は、その先には限界集落があったり消滅都市があったりとか、学校だけの問題じゃないと思いました。グローバル化になって外国人の受け入れが始まって、インバウンドにも取り組んでいます。酒田はあまりいないんですけれども、ここに外国人の子ども達がどんどん増えてきたら、そういった中でも教育の在り方って変えていかなければならない。確かに渡部委員が言われたとおり翻訳機があっても、自分の考えをしっかり持ってなかったからしゃべることもできないわけですよね。そういう意味では、簡単に言うと酒田を自分の言葉で紹介できるとか、何かをやった時に自分の考えをしゃべることがもっともっと大事な事かなと思いました。ＡＩに関しては、例えば遠隔医療ができるようになりました。山間部であっても、テレビ電話で診療ができます。でも医者がいないです。ネットで注文して配達してくれるようになりました。すごく便利です。でも配達する人がいないです。そうやって色々考えていくと、そういった人づくりも市長が先ほど言われた「まちづくりは人づくり」で、その人づくりの根本、基礎の部分を学校教育の中でしなきゃならないんだろうなと思いました。その中に色々な重点があって、でも豊かな人生とか幸せな人生とは何だろうかとか、社会とは厳しいけれどもそこに生き抜く力とは何だろうかとか、それを例えば人間力とかあるいはそれぞれの個性とか力を育てるような教育を含めた計画にしていかなければならないかなと思いました。その中にできれば酒田方式とか酒田スタイルとか、酒田モデルとか酒田オリジナルとかあったらかっこいいかなと思います。

（丸山市長）

本当に全て網羅されてるなと思って感心して聞いておりました。

何か皆さん言い足りなかったことありませんか。特にスポーツとか芸術文化について何も出てないんですが、何かありましたら折角ですからお聞かせいただければと思います。

（村上教育長）

市長にお伺いしたいんですけれども、酒田市の強みを活かして教育を豊かにするという時に、市長としてはどのような思いがあるのかあればお聞かせ願えればと思います。この間出たのは、医師会との協定がございまして先生方のメンタルヘルスも本当に県内最初にやったということがあります。何か市長の方からこういった点はということがあれば折角の機会ですからと思ったんですが、逆にお聞きしてもよろしいですか。

（丸山市長）

たぶん私も自分の頭で具体的にこうって的確に表現できないんですけれども、皆さんの仰ったこともちろん私の想いと同じなのですが、やはり教育の中で一番感じてもらいたいのは、前も教育長に言ったことありますが、健康であることというのがどれだけ社会のために役立つかということを、学校教育、社会教育も通じてですけれども、しっかり子ども達、親御さんも含めて大人にも伝えてもらいたいなと。結局健康でなければ医者にかかってこれが全部今の医療費だとかみんな国全体の財政にまで影響してきているわけですよね。お医者さんもこれから少なくなる、医療機関も少なくなる、先ほどのテレビ診断の話もありますけれども、それを見るお医者さんも少なくなるという話もありますけれども、やはりおそらく自分の健康管理は自分が責任を持って、健康を壊すというのは社会的な迷惑だという時代になるような気がするんですね。だからそのことの大切さってことが一つ必要なんだろうなと。だけど、健康ってなんなのかと、先ほどダイバーシティーの話もありましたけれども、ハンディキャップを持ってるから不健康だということではないので、そこのところの意識ですよね。やはりそれぞれ個性があってハンディキャップを持ってる人もいるので、そういう人達は社会がしっかり支える、あるいはその中でも元気にやっていけるようなそういう教育環境を作ってもらいたいなというのが一つですね。あとは、今までは私はそうは思わなかったんですけれども、これだけどんどん人口が減ってきて地域が成り立たなくなるようなくらいの加速度的な人口の減少になってるじゃないですか。これはやはりその地域を残すということの前提で自分がそこにいてその地域を支えるというそういうことの評価、何も東京とか世界に出てノーベル賞を取るだけが人間の評価ではないというそういう評価を教え込むようなそういう教育をここでできたらいいかなという想いくらいですかね。ここに残って頑張ろうという人間が生まれれば、例えば農業だったら地場産業を強めることになるし、企業でもいいですし、何か自分たちで業を起こしてもいいわけですけれども、その地域にこだわって自分の人生の糧をそこに見出すようなそういう教育をやってもらえればいいかなという想いくらいですね。

自分も教育者ではないので、実際そんなことが上手く学校とか社会教育の中でやれるのかというのはあまり確信は持てないんですけどね。ある意味、お金で済む問題であれば予算を投入すれば良いわけですけれども、要するに先ほど神田先生からもありましたがアウトプットですよね。そこのところを、やはり周りが分かるようにどうやって検証して示すかというところが教育委員会の大変なところで、さっき言ったように算数とか数学の点数で評価するわけではないので、実証をどうやってやるかっていうのが大きな課題だなと思いますけれど、アウトプットにしっかり繋がるような教育振興基本計画として組み立てて、だからといってアウトプットが必ず出るかというのは分かりませんけれども、できれば繋がるような具体的な授業を教育委員会から組み立ててもらうと予算とかかかるものであれば投入する意味があるかなと思いますし、ただお金を掛けたからどうなるという話ではない感じがします、教育って。教える方も学ぶ方も、それを見守る方も意識が共有されてないとダメだと思うので、そのためにはどうやって地域に意識の調整を図るのかというところの施策というのは、それは教育委員会というより市長部局なのかなという感じがしますが、具体的に言うと自治会とかコミュニティ振興会とかも含めてですけれども。抽象的ですいませんけれども、私の思いとしてはそんな話で引き続き教育については２・３年やったからどうこうという話ではないので、ずっと自分のライフワークとしてそういうものに対して支援というものを市長としては考えていきたいなと思います。

スポーツ・文化・芸術については、何かあれば別の機会に。是非、良い教育振興基本計画を教育委員会のみなさんから作ってもらって、我々本当にこれをバイブルにまちづくりを進めていきたいと思っております。よろしくお願いしたいと思います。

（本間次長）

長時間に渡りましてご協議ありがとうございました。次回の会議の日程でございますが、具体的な開催時間、協議事項につきましては改めて事務局の方よりご連絡を申し上げさせて頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

それでは、これを持ちまして令和元年度第１回酒田市総合教育会議を閉会致します。

どうもありがとうございました。